

## ギャギャでひらめきと創造を

以前、岐阜県庁で勤めていた時に「ギャギャ会議」とその十原則なるものがあり、コミュニケーションのツールとして重宝していました。会議の名前は、騒がしい様子を表すオノマトペ（擬声語）からとったもので、十原則の中には、「言いつばなし、聞きつばなし」という項目がありました。公式の会議で言いつばなし、聞きつばなしはないだろう、と思いましたが、実際実践すると、アイデアを口にしやすい、自由な意見がどんどん出てくる雰囲気が作り出せました。

脳科学者の茂木健一郎さんは「最も身近なひらめきというのは会話」で、「知性はコミュニケーションにおいてこそもっとも端的に現れる」と言っています（注）。私が市政推進の3つの方法論に「情報公開の徹底」と「説明責任の全う」に併せて「コミュニケーションの活性化」を掲げているのも、対話などの活発なやりとりから、新しいアイデアや良い施策が生まれることが多いと考えるからです。

コミュニケーションの充実は、さまざまな関係性において必要かつ重要です。市民との協働を軸としたまちづくりを謳<sup>うた</sup>う本市において、行政と市民、特にトップの私と市民との間のコミュニケーションをいかに活性化させるかは、大きな課題です。その対策の一環として「市長まちかどトーク」を平成21年度から行っています。今年度は10月末までに、「塩江温泉観光協会」、親しい人の喪失を体験した人の心のケアなどを行っている「NPO法人グリーンかがわ」、若手起業家などの集まりである「西日本めっちゃイケ異業種交流会」など、既に5つの団体との間で実施しています。

さまざまな活動をしている市民団体の皆様と膝を交えて、率直な意見交換をすることにより、私は関連施策の進め方について多くのヒントを得られています。そして、市民団体などの方々は、行政側の考え方や関連情報を得ることができて、自分たちの活動をより効果的に進めるのに役立っているようです。

リラックスした雰囲気でワイワイ、ギャギャやる。そこにひらめきと創造の種が生まれます。あとはそれをいかに花開かせるか、ですね。

（注）「ひらめき脳」茂木健一郎著（新潮新書）